# 新年の挨拶

代表取締役社長　安永　暁俊

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには、ご家族とともに輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

社員の皆さんには、日頃よりそれぞれの持ち場・立場で、全力投球で業務に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。

## 今期中期計画を振り返って

この3年間を振り返ると、自然災害が多発し、また、国内外の経済情勢も変わってきました。

しかしながら、そういった外部環境は変われども、安永内部で決意して取り組んできたことは、徐々に形に現れ始めています。

一例として、部品事業部の戦略2C(カムシャフト、クランクシャフト)製品への取り組みを挙げたいと思います。

### エンジン部品2Cの一歩

3年前の中期計画の立案時に、部品事業部で合宿を行いました。その中で部課長の皆さんと、将来的にエンジン部品5C(コンロッド、シリンダーヘッド、シリンダーブロック、カムシャフト、クランクシャフト)全てを手がけたいとの夢を語り合いました。

それから3年、2C製品の加工量産への挑戦が着々と実を結んでいます。

カムシャフトは、若手主体の専任チームを立上げました。試行錯誤しながらも、試作から一歩一歩進んでいます。試作で実績を積みながら、量産ラインへのスムースな移行が今後の課題となってきます。カムシャフト製品の素材加工の一貫対応を実現すべく、日夜取り組んでいます。

クランクシャフトは、韓国で自動車メーカーからライン移管を受けました。今回は、韓国安永の会社設立も重なっており、日韓社員の立上げの苦労が多くなりました。日本からの出張者を10名程に増員し、力を合わせて、何とかラインを立ち上げてきました。立ち上げ初期の混乱を抜けて、徐々に形になってきています。日韓両国の考え方や習慣が異なる中、お互いに理解しようと努力しながら取り組んでいます。

未知の分野への初めての一歩は、多くの困難を伴います。この貴重な一歩が、千里の道につながっていくことを私は確信します。

同時に、皆さんの職場での、業務改善や業務改革という身近で小さな一歩も大切です。皆さんの一歩が大きな力となるのです。

## 次期中期計画に向けて

次の第4次中期計画（2014～2016年）は、引き続き『グローバルニッチNo.1』を標語として掲げます。

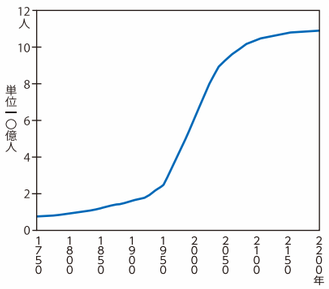
中期経営計画を検討している真っ只中だと思いますが、せっかくの機会ですので、どうか長い目で見て、自分たちの夢や3年後の姿を思い浮かべてください。

日常業務で、一日一日にこだわって、一週間、一ヶ月、一年で結果を出していくことはとても大切です。と同時に、もっと長期での視点で考えることも必要です。なぜ必要かというと、顧客の長期要求を理解できる、競合先の長期戦略にも対応できる、技術を長期視点で見直しできるからです。

皆さんが長期の視点で考えるきっかけになるよう、このあと、人類の未来と、自動車の未来について述べます。各事業での中期計画のヒントになれば幸いです。

### 人類の未来について

次のグラフは、国連が出している450年間（1750～2200年）の世界人口の推移です。よく見ると、なかなか面白いものです。




世界人口 1750–2200 年 ,2000 年以降は国連の中位推計

グラフは1750年から始まっています。日本では江戸幕府が始まってから150年経った頃です。暴れん坊将軍のモデルとなった8代将軍徳川吉宗の時代です。

それから200年間、世界の人口は大きくは増えませんでしたが、1950年からすさまじく増え始めました。2050年までの100年間で、人類は25億人から100億人へと約4倍になると予想されています。

普段はあまり意識しませんが、現在は、人類史上かつてなかった、人口爆発の時代です。そして、その中で人類は、継続的に繁栄していくのです。

### 自動車の未来について

人類の繁栄が、今後も持続可能であるのは、過去に起こった産業革命や農業革命によって、生産性の向上による所得増と食糧増が達成されたからです。

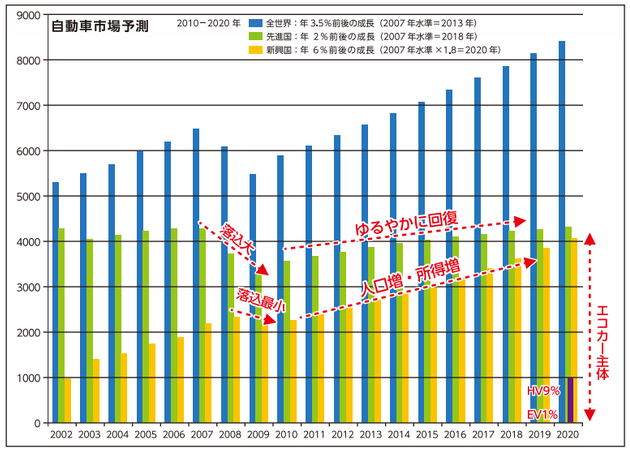
特に、過去40年間では、前例のない成長を達成しており、先進国でも新興国でも3倍以上豊かになりました。

今後とも、自動車市場を始めとする、当社に影響の大きな市場も順調に拡大していくと予想されています。

次のグラフは、自動車の世界市場の販売予測を元に、私なりに作成したものです。これを見ると分かるように、2008年のリーマンショック後に落ち込んだものの、2020年にかけて、特に新興国の人口増・所得増を中心に、世界的に自動車市場は伸びていきます。

世界の人々が、徐々に豊かになっていく段階で、自動車が果たす役割はとても重要です。一般に、一人当たりGDPが3000ドルを超えると、モータリゼーションが本格化します。

日本では、1973年がその年に当たりますが、その前後から、家庭に自家用車が購入されるようになりました。自動車は単に輸送機関としてだけでなく、生活の中に入り込み、旅行その他のレジャーから通勤に至るまで活躍してきました。




同じことが、これから多くの新興国で始まります。自動車は、新興国の人々にとっても欠かせない、文化的・社会的な存在となっていきます。

安永は、これからも自動車関連の事業を通じて、先進国に加えて、新興国の人たちの社会文化の豊かさにも貢献していきます。

そういった大きな社会的使命を持つ自動車ですが、その動力源の主体としては、今後もエンジンが主要な役割を果たします。

航続距離の短さに課題を抱える電気自動車は、先進国の中での近距離利用に限定されつつあり、2020年におけるシェアは1%程と予測されます。

先進国市場の大部分は、エコカーとしてエンジン燃費を徹底追及したエンジン車とハイブリッド車、新興国市場のほぼ全ては、従来どおりのエンジン車が占めると予測されます。

自動車市場について述べてきましたが、その他、太陽電池市場、電子・半導体市場、環境機器市場においても、この世界的な人口増加を受けて、今後どうなるのか、想像してみてください。

明るい未来に向けた、力強い中期計画を策定いただけることを期待します。

### 新年を迎えて

かつてない人口増の時代を生きていることを感じながら、この2014年が良い一年にできるよう、ともに頑張りましょう！

（参考文献）　環境危機をあおってはいけない　ビヨルン・ロンボルグ著